

科目名	助産論Ⅱ(周産期ケア論)MidwiferyⅡ			担当教員 (研究室番号)	杉山 泰子 (103) 大平 肇子 (104) 渡邊 聡子 (102) 岩田 朋美 (101) 市川 陽子 (105) 辻 まどか (105)		教員への連絡方法 (メールアドレス)					
履修年次	3年次 後期	科目 区分	専門科目・生涯看護学		選択 区分	自由	単位数 (時間)	1(30)	授業 形態	講義	科目等 履修生	否
											オープンクラス	否
科目目的	周産期にある母子とその家族の健康を支援するため、助産の基盤となる概念理解に基づき、助産診断能力を養い、助産師が行うケアについて考察を深める。											
ディプロマ・ポリシー(DP)	主要なDP	B 人々の生活に根ざした看護を実践するための幅広い教養と専門的知識を有している。(知識・理解)										
	関連するDP	A 人々の生命・尊厳・権利を尊重し、看護専門職者としての倫理観に基づいて行動することができる。(姿勢・態度) F 地域社会に暮らす人々の健康課題の解決に向けて、対象に応じた看護を提供できる。(技能・表現)										
到達目標	1. 周産期の助産診断の特徴と診断のポイントについて述べるができる。 2. 周産期の助産診断に基づき助産師が行うケアについて述べるができる。 3. 助産師に求められるハイリスク・異常状態にある母子とその家族のアセスメントとケアについて考察することができる。 4. 助産管理の基本概念および周産期管理システムについて述べることができる。											
成績評価方法(基準)		筆記試験(80%)、演習課題(10%)、授業への参加姿勢と態度(10%)										
再試験の有無と基準等		無: 筆記試験は助産師に求められる基本的な知識が定着していることを前提としており、科目の合否結果で不合格となった場合、再試験は実施しない。										
教科書		助産学講座 1・6～8・10(医学書院) 改訂4版 胎児心拍数モニタリング講座(メディカ出版)										
参考書等		必要時、紹介します。										
学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待		助産師に求められる知識・診断技術の修得に焦点をあわせた授業です。周産期を中心に授業を進めますが、母性看護学概論、母性看護方法Ⅰ・Ⅱ、助産論Ⅰ、臨床病態学Ⅳ(産婦人科学)・Ⅴ(小児科学)の理解が不十分だとかなりの自己学習が必要となります。常に自分の学習課題を明確にしながら主体的・積極的に授業に臨むことを期待します。										
備考		助産師国家試験受験資格取得のための必須科目です。助産論Ⅰの単位を修得していることが履修の前提となります。										
回	学習項目				学習内容				主担当 教員	授業 方法		
1回	助産過程の基本と展開				助産の基本概念と支持理論を学び、助産の意義・本質について考えるとともに、助産実践における質と安全を保証するための助産師の役割を考える。また、助産診断の独自性と範囲、周産期の助産診断と助産過程について理解する。				大平	講義		
2回	妊娠期の助産診断とケア①				妊娠期の助産診断の特徴と診断のポイントについて理解する。				杉山	講義		
3回	妊娠期の助産診断とケア②				助産診断に基づき助産師が行う妊娠期のケアについて理解する。				杉山	講義		
4回	妊娠期の助産診断とケア③				助産師に求められるハイリスク・異常妊婦のアセスメントとケアについて考える。				岩田	講義		
5回	分娩期の助産診断とケア①				分娩期の助産診断に必要な知識・技術について理解する。				大平	講義		
6回	分娩期の助産診断とケア②				分娩期の助産診断に必要な知識・技術について理解する。				大平	講義		
7回	分娩期の助産診断とケア③				分娩期の経過診断のポイントとケアについて理解する。				杉山	講義		
8回	分娩期の助産診断とケア④				分娩期の健康生活診断のポイントとケアについて理解する。				市川	講義		
9回	分娩期の助産診断とケア⑤				分娩時の胎児心拍数モニタリングの理解を深め、正常経過逸脱時・異常時の対応を学ぶ。				岩田 他	演習		
10回	産褥期の助産診断とケア①				産褥期の助産診断の特徴と診断のポイントについて理解し、助産師に求められるハイリスク・異常褥婦のアセスメントとケアについて考える。				辻 他	講義		
11回	産褥期の助産診断とケア②				助産診断に基づき助産師が行う産褥期の母子ケアおよび母乳育児支援について理解する。				辻 他	演習		
12回	新生児期の助産診断とケア①				新生児期の助産診断の特徴と診断のポイントについて理解し、助産診断に基づき助産師が行う新生児期のケアについて考える。				市川	講義		
13回	新生児期の助産診断とケア②				助産師に求められる健康逸脱・異常状態にある新生児のアセスメントとケアについて考える。				市川	講義		

14回	乳幼児期のアセスメントとケア	生後4か月までの児の成長・発達を理解し、乳幼児の身体的成長・発達、心理・社会的発達、母子関係など総合的なアセスメントとケアについて理解する。	杉山 他	演習
15回	助産管理の基本	助産管理の概念について理解する。また、周産期管理システム、周産期搬送システム、オープンシステム等について理解する。	渡邊 他	演習

学 習 課 題

2回目～4回目課題（事前）：母性看護方法Ⅱで学んだ妊婦の看護について復習する。
 5回目～9回目課題（事前）：母性看護方法Ⅱで学んだ産婦の看護について復習する。
 10回目～11回目課題（事前）：母性看護方法Ⅱで学んだ褥婦の看護について復習する。
 12回目～13回目課題（事前）：母性看護方法Ⅱで学んだ新生児の看護について復習する。
 14回目課題（事前）：生後4か月までの児の成長発達について予習する。
 15回目課題（事前）：周産期管理システム、周産期搬送システム、オープンシステムについて予習する。

実務経験を活かした教育の取組

担当教員全員は、看護職として実務経験がある。看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義及び演習を行う。